

○第119回プリオン専門調査会

日時: 令和2年9月11日(金) 14:00～15:37

場所: 食品安全委員会 中会議室

議事概要:

1. フィンランドから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓に係る食品健康影響評価について

- ・フィンランドの評価書(案)について、事務局から説明があり、その後、質疑応答が行われた。
- ・審議の結果、フィンランドに係る輸入条件に関する以下のリスクについては、いずれも「人へのリスクは無視できる」と評価された。

(1) 牛の肉及び内臓について

① 月齢制限

現行の「輸入禁止」から月齢制限を「条件なし」とした場合

② SRM の範囲

「輸入禁止」からSRMの範囲を「全月齢の扁桃及び回腸(盲腸との接続部分から2メートルの部分に限る。)並びに30か月齢超の頭部(舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。)並びに脊髄及び脊柱」とした場合

(2) めん羊及び山羊の肉及び内臓について

現行の「輸入禁止」から「SRMの範囲を12か月齢超の頭部(扁桃を含み、舌、頬肉及び皮を除く。)及び脊髄並びに全月齢の脾臓及び回腸とし、SRMを除去したものを輸入」とした場合

- ・評価書(案)の一部修正については座長一任とされ、修正後、食品安全委員会に報告することになった。

2. デンマーク及びオーストリアから輸入される牛肉及び牛の内臓に係る食品健康影響評価について

- ・デンマーク・オーストリアの評価書(案)について、事務局から説明があり、その後、質疑応答が行われた。
- ・審議の結果、諮問事項の「国際的な基準を踏まえてさらに月齢の規制閾値(30か月齢)を引き上げた場合のリスク」に関し、デンマーク及びオーストリアのそれぞれから輸入される牛肉及び牛の内臓の月齢制限を「条件なし」としたとしても、「人へのリスクは無視できる」と評価された。
- ・評価書(案)の一部修正については座長一任とされ、修正後、食品安全委員会に報告することになった。

3. 平成30年度終了食品健康影響評価技術研究の報告について

- ・岩丸専門委員から、「試験管内プリオン増幅系を用いた「種の壁」の定量的評価のための研究」に関する報告があり、その後、質疑応答が行われた。

4. その他

- ・平成27年12月に厚生労働省から食品健康影響評価の依頼があった、牛海綿状脳症(BSE)国内対策の見直しに係るSRMの範囲の変更について、事務局より、OIEで検討中のBSEコード改正案を含む最近の国内外の状況に関する報告が行われた。
- ・質疑応答の後、座長より、本件に係る調査会での審議を再開することの提案があり、委員から了承された。
- ・評価書(案)の作成に関し、岩丸専門委員、高尾専門委員、筒井専門委員、八谷専門委員、福田専門委員が起草委員に指名された。

以上